

令和4年度 学校評価総括表

五條市立西吉野農業高等学校

教育目標	高い志をもち、広く社会や地域の発展に貢献する自立した人材の育成					総合評価
運営方針	「不撓不屈」の校訓のもと、「土に学び、土で育つ」をスローガンに定め、実学を重視した教育活動を展開する。「できないこと」が「できること」に変わる、生徒が日々成長する学校、「行きたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりを実現する。 ・主体的に学び、変化する社会に対応できる確かな学力を培う。 ・他人を思いやる豊かな心を育て、人権を尊重し、社会に貢献する精神を育む。 ・健康、安全についての知識を深め、健康保持に努めるたくましい心身を養う。					
令和3年度の成果と課題	本年度重点目標					B
地元農家の協力を得て、実習を核にした実学教育の推進、新たな学校行事を含めた教育課程の再検討を必要とする。 全国から生徒を募集しているが、募集定員を満たしていない。学校の魅力づくりや情報発信をさらに強化する。 農業の専門高校としての農業施設や設備の整備・充実が急務である。 オンライン等を利用した授業のあり方、観点別評価への準備が課題であった。	基礎学力の定着と個に応じた進路指導を実現する。～授業の改善・実習の充実とキャリア形成～					
	安心で安全な学校づくりに努める。～開発的生徒指導と豊かな心を育てる人権教育～					
	充実した学校生活を実感できる教育活動を実施する。～学校行事の充実と部活動の活性化～					
	保護者や地域との連携を密にする。～情報発信、学校評価、地元協力農家との連携～					
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
1学習指導	①基礎学力の定着	アクティブラーニングを用いた授業の実施、個別指導の充実、基礎学力定着をねらう教材の使用を進める。 【目標 学期ごとの欠点保有者数 10%以下】	B	B 欠点保有者数の目標値は達成した。授業スタイルについてはアクティブラーニングの授業比率を高める努力がさらに必要である。 本校における農業科の科目において特色となる実習を通じて学ぶ実学重視の授業を実践できた。新たに熊野農業体験実習を実施できた。	授業見学週間を設定したり、クロムブック活用研修を行ったりして授業の改善や指導力向上に努めている。実習の充実に関しては、地元農家の協力を得て、さらに充実した実学重視の実習を実現する。	農業科の実習がより充実したものとなるよう、農業施設の維持管理や栽培管理に従事する職員の配置が必要である。
	②実習の充実	実学を重視して、農業科の専門学習において、実習による授業を多く行う。 【目標 農業科の授業における実習の割合 60%以上】	A			
2進路指導	①希望の進路実現	個別進路面談の実施と応募前企業見学やオープンキャンパス参加を促す。 【目標 生徒アンケート(4年生)「自分の希望する進路実現ができた」90%以上】	B	B 進路内定者は73%(2月8日現在)である。内定者は概ね希望した進路を確定させた。 コロナ禍や交通の利便性も関係して、本年度インターンシップに参加した生徒はいなかった。キャリア形成を実現のため推奨していきたい。	入学時から徐々に卒業後の進路実現を意識づけていき、必要とされる学力やコミュニケーション力の向上に向けて、教育課程を編成する。インターンシップへの参加は正しい勤労観の修得に通じるため、積極的な参加を推奨する。	就職しても、上司等から厳しい指導をされると離職する生徒もいると思うので、離職を避ける意味で日頃から厳しく暖かい指導をお願いしたい。
	②キャリア形成	前向きに自己の将来を考え、多様な人と協働して正しい勤労観を育成するようインターンシップへの参加を推奨する。 【目標 参加人数 延べ10名以上】	C			
3生徒指導	①教育相談	様々な悩みや問題を抱える生徒に早期の対応ができるように教育相談の体制を確立する。 【目標 カウンセリング相談延べ人数 延べ30名以上】	B	B 2月現在で、17名の生徒がカウンセリングを受けている。生徒が悩みを相談する機会となり、心の安定を維持することができた。 様々な行事や交流活動が復活しつつあり、「賑わいフェス」などボランティアに参加する機会が前年度と比較して大幅に増加した。	授業時間も公欠等に対応して、悩みがある生徒が気軽にカウンセリングを受けられることができるようにして、生徒の心の安定を図る。計画的にコロナ感染拡大以前の体制で、地域のボランティア活動に参加する。	学校生活における指導について優しさも必要だが、従来からの厳しさも生徒のために必要である
	②自己有用感の育成	地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。 【目標 行事・ボランティア参加人数 延べ50名】	B			

4人権教育	①人権感覚の涵養	授業やホームルーム等を活用して、人権に関する知的理解を深め、人権感覚を育む。 【目標 人権HR年間実施回数 5回以上】	B	B	時間的な制約があったが、人権HRは年間5回実施できた。毎月11日に人権標語の教室に掲示して人権感覚を醸成した。	HRの年間計画を見直し、少なくとも目標回数の実施と内容の充実を図る。	人権ホームルームについては継続をお願いする
5特別活動	①学校行事の充実	望ましい人間関係を築き、学校生活が豊かなものとなるよう生徒が積極的に学校行事に参加するよう工夫する。 【目標 主な学校行事の参加率 95%以上】	A	B	生徒の行事の参加率はほぼ100パーセントに近い。準備、運営、行事からの学びなど生徒の成長の場となっている。	生徒は積極的に学校行事に参加できている。アルバイトをしている生徒や遠方から通う生徒も無理なく参加できるように部活動の実施計画を確立する。	北海道現場実習など魅力ある学校行事は継続をお願いしたい。
	②部活動の活性化	部活動への加入率を高め、無理のない部活動実施計画を立てる。 【目標 部活動活動日数 各部週1回以上】	B		年度当初は加入率は50パーセントを超えている。軟式野球部、囲碁部、陸上部が全国大会に出場した。		
6情報発信・連携	①ホームページの活用	学校ホームページの充実を図り、更新頻度を高め、教育活動や生徒の様子を迅速に情報発信する。 【目標 年間発信回数 250回】	A	A	年間発信回数は目標値を超えている。生徒の学習活動や日々の様子を発信して、学校の広報活動や保護者への情報提供として大いに役立った。	ホームページを活用して、ブログを中心にこれまで通り、日々新たな情報を発信して、広報活動に生かしていきたい。「西吉野農業を支援する会」との連携を密にするなど、地元農家からの協力が得られるよう努める。	現在の情報収集源はSNSが主になっている。そのような中、ブログでの情報発信は効果的である。継続し、全国へ西吉野農業高校の周知に努めていただきたい
	②地元(協力農家)との連携	「総合実習」「就労体験活動」に教員が巡回して、生徒や学校に対する率直な情報を収集する。西吉野農業高校を支援する会との連携を図る。 【目標 実習・就労巡回率 100%】	A		「総合実習」や「就労体験活動」では必ず教員が協力農家等を巡回し、生徒の活動を観察し、協力農家等から情報を収集して、生徒の指導に活用した。		